

発行所

日刊 建設工業新聞
米子本社 米子市祇園町2-33-13
電話(0859)32-1771(代表)

購読料1カ月 本体価格20,278円
税込価格21,900円

©日刊 建設工業新聞 2015

Advertisement for No.1 qualification exam with 54.8% pass rate.

県立布勢運動公園

トラック舗装全面張り替え

段差解消などに2.3億円投入

(無料メールで19日配信済み記事) 来年4月に鳥取市で開催される「日本パラ陸上競技選手権大会」を前に、県は会場となるコカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(県立布勢総合運動公園・鳥取市布勢)を改修する。「9月補正」に2億3000万円を計上。来年3月までに陸上競技トラックの全天候舗装を張り替えるほか、施設のバリアフリー対策を進める。

陸上競技トラックに採用している全天候舗装は、海外の競技場でも主流の「スーパーX」。2008年に全面張り替えて以来、6、7年が経過。トラック路面が固くなってきていることが競技者から指摘されており、「特に1000坪の走路で劣化が進んでいる」と、県緑豊かな自然課という。このため来年4月30日〜5月1日に日本パラ陸上を控えていることや、5年後の東京五輪・パラリンピックのキャ...



来年4月の日本パラ陸上を控え、トラック舗装を張り替える陸上競技場(鳥取市布勢)

陸上競技トラックの全天候舗装は、海外の競技場でも主流の「スーパーX」。2008年に全面張り替えて以来、6、7年が経過。トラック路面が固くなってきていることが競技者から指摘されており、「特に1000坪の走路で劣化が進んでいる」と、県緑豊かな自然課という。このため来年4月30日〜5月1日に日本パラ陸上を控えていることや、5年後の東京五輪・パラリンピックのキャ...

きょうの紙面

(本日は10ページ)

2面 県産材使用補助

県農林水産部は、波及効果の高い県内の民間施設の木質化をモデル的に支援するため、2015年度に創設した民間施設木づかい推進モデル事業を活用する事業者を募集している。

4面 カウモと讃岐

県中部総合事務所農林局は、倉吉市関金町にある農業用水路の長寿命化計画を進めるための調査を進めて、上流側のカウモ井手と下流域の讃岐井手について機能を診断。来年度以降、長寿命化のための効果的な改修や維持管理に着手する。

6面 インフラ用ロボ

国土交通省は、インフラの老朽化対策や災害応急復旧への利用が期待されている「次世代社会インフラ用ロボット」の2015年度現場実証を開始する。

国土交通省は、インフラの老朽化対策や災害応急復旧への利用が期待されている「次世代社会インフラ用ロボット」の2015年度現場実証を開始する。

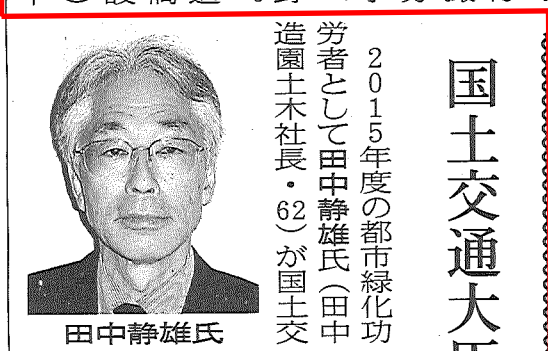
西因幡の温泉郷として昔ながらの温泉街の佇まいを今に伝える鳥取市吉岡温泉町にある吉岡温泉。温泉街を流れる川沿いに並ぶ風情たぐやうな町屋のまちなみが閑静な湯場の情緒を醸し出しているこの町で、温泉街を活性化させよう、かねてから議論されていた町営の公衆浴場、吉岡温泉会館の移転新築計画が住民の総意に基づいて具現化に向けて動き出した。今から1000年前に発見されたと伝えられる吉岡温泉。古くは、この地の領主となった鹿野城主の亀井茲矩の殿湯として使われた。その後、お国替で岡山城主から因幡伯耆32万石の領主となった池田光仲がその亀井湯殿の西側に開発した殿湯湯の湯の湯治の際の御茶屋があった。この御茶屋は、明治維新後の廃藩置県で鳥取県を併合した鳥根県の高草郡役所としてなり、再置された鳥取県では気多郡役所も併置され、後に気高郡役所となった。かつて、因幡の奥座敷として栄え、西因幡の中心地だったこの町では、歴史のある温泉を地域の資源として活用した街づくりを進めている。その象徴として、町が所有する旧吉岡温泉ホテル跡地に計画している新温泉会館は、鉄骨造一部2階建て木造風仕上げの200坪程度の施設を構想している。山陰道・鳥取西道路の2017年度の供用開始を見据えて着工する予定だ。折しも、第二次安倍内閣が主要政策に位置づける地方創生をキーワードとした自律的で持続可能な元気で豊かな地方の創造に向けたプランづくりが全国各地で進んでいる。新温泉会館の基本計画案は、すでに指名方式による設計コンペでプランの提案を依頼しており、全町民による投票で決めるという。

陸上競技場トラック外通路の段差解消(縁石撤去、段差解消) 2500万円
陸上競技場併設の室内練習場全天候舗装補修 2200万円
陸上競技場屋外既設階段の手すり設置(補助競技場、段差明示など) 500万円
陸上競技場内投てき用車いす固定具設置(投てきサークル2カ所) 200万円

ドローンを業務にGICが杉下橋で
ジーアイシー(倉吉市東蔵城町)は16日、琴浦町杉下の杉下橋で、UAV(無人飛行機・ドローン)を使った空撮を行った。発注者や住民に分かりやすい資料提供を行う手法の一つとして利用しており、併せて今後さらに幅広い分野で活用するよう模索している。現場は、県が発注した県道東伯岡線改良工事(杉下橋工区)「測量及び道路詳細設計業務委託」(交付金改良)で、測量・設計延長は、杉下橋の前後500m。起点側にUAVと操作する久米田寛氏、杉下橋付近に田栗信昭社長が待機。田栗社長の合図でUAVを飛ばし、起点から終点部までの撮影を行った。使用したUAVは、最大通信距離1.7km、フライト時総重量約6kg(カメラ・バッテリー含む)、最大積載重量4.7kg、最大飛行時間約20分。フェイルセーフ機能付き、FPV搭載、GPS自立飛行可能。ドローンの有用性が注目、普及が進むと共に、適切な飛行ルールの策定、適用が急がれており、改正航空法が9月に可決、国土交通省が航空法施行規則の改正作業を進めている。同社では、オペレーターと監視員の2人を基本とする。飛行時間はバッテリー50%まで、などより厳格、安全を第一にした社内規定を設け運用している。

ドローンを離陸させるGICの久米田氏ら

国土交通大臣表彰に田中静雄氏
2015年度の都市緑化功労者として田中静雄氏(田中造園土木社長・62)が国土交通大臣表彰を受賞することが決まった。30日、東京都・日本消防会館ホールで開かれる「ひろげよう・育てよう・みどりの都市」全国大会の場で表彰される。田中氏は長年にわたって造園技術の継承と都市緑化事業に携わり、都市緑化の推進に大きな功績が認められた。現在、県造園建設業協会会長。



田中静雄氏

業界往來
第4回天神川流域会議が、22日午後3時から倉吉文化活動センター(旧勤労青少年ホーム)で。